

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 1
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

平成28年5月の優しさ通信



認知症見守りに小型端末 ALSOK

靴や杖に取り付け 低価格で軽量化

総合警備保障（ALSOK）は、徘徊する認知症高齢者の居場所を見つける小型の発信端末を開発しました。端末は衣服に縫い付けたり、お守り袋に入れて杖に結び付けたりできます。介護用靴大手の徳武産業と協力して専用の靴も開発しました。

価格は1台2000円程度を見込みます。毎月の利用料は200～300円にする方針。

街中で専用の無料アプリを入れたスマホやタブレットが高齢者とすれ違うと検知します。

居場所を確認する精度を高めるには、一定数以上のアプリを持つ協力者が必要です。

（2016年4月5日 日本経済新聞記事から抜粋）



要介護率 地域差1.6倍 厚労省調査

大阪で最大、22.4%

65歳以上の高齢者に占める要介護認定を受けた人の割合（要介護認定率）は、都道府県別で最大1.6倍の差があることが、厚生労働省の調査でわかりました。最も高かったのは大阪の22.4%、最も低かったのは山梨の14.2%で、全国平均は17.9%。

大阪に続いて認定率が高かったのは、和歌山20.7%、京都19.7%、長崎19.6%。大阪や和歌山などでは、要介護2以下の軽度者の認定率が高い傾向。

要介護認定されていない人を含む65歳以上の高齢者1人当たりが利用する介護費用は、全国平均で年間274,000円。最高は大阪の319,000円。

（2016年4月6日 日本経済新聞記事から抜粋）

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 2
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



脊髄損傷、まひの手 動いた！

米チーム、脳の信号伝える装置

脊髄を損傷し、手足の動かなくなった患者が頭で思い描いた動きを装置で読み取り、手に電気信号を伝え作業できるようにすることに世界で初めて成功したと、米オハイオ州立大などのチームが発表しました。

通常、脳が手を動かそうと考えると電気信号となって神経細胞を伝わり、脊髄を経由して手の筋肉を動かします。

(2016年4月14日 日本経済新聞記事から抜粋)



下着、障がい者も気やすく 高い伸縮性、保温も

ストレッチパンツの専門店「ピースリー」を運営するバリュープランニングは今秋、障がい者や妊婦らが着用しやすい保温下着を発売します。体の動きを妨げないデザインに同社の強みの伸縮性を生かせると判断。

誰もが使いやすい「ユニバーサルデザイン」のコンサルティングを手掛けるミライロと組んで開発。薄手であっても保温効果が高いことをアピール。今後は高齢者や障がい者への接客方法などの研修をして、商品以外でもユニバーサルデザイン化に取り組みます。

(2016年4月15日 日本経済新聞記事から抜粋)



i P S+ロボ=脊髄損傷治療

慶大・サイバーダイン、歩行改善目指す

慶應義塾大学とロボットベンチャーのサイバーダインは、i P S細胞を利用した再生医療と医療ロボット「HAL」を組み合わせた、脊髄損傷に対する新たな治療法の開発に乗り出すと発表。i P S細胞による再生医療と先端的な医療ロボットは、ともに日本が開発した技術。

(2016年4月19日 日本経済新聞記事から抜粋)



テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 3
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

摂食障害患者 2.6万人 拒食症や過食症

厚生省調査 相談者4割、治療せず

拒食症や過食症などの摂食障害で治療を受けている患者が、全国に推計26,000人いることが、厚生労働省の調査でわかりました。国による大規模調査は1998年以来で、当時から約1割増えました。

うち約9割にあたる23,000人が女性。最も多いのが極端に食事の量を減らす拒食症で、女性約11,580人、男性約620人。

全国の保健所の摂食障害に関する相談の状況は、過去5年間の相談の総数は3084件。

相談した人は、家族が43.3%、本人が27.4%。

相談者で実際に医療機関で受診しているのは39.6%。治療を途中でやめたり、治療を受けていない人が43.0%。

※**摂食障害**：主に極端に食事を制限する拒食症と、大量の食事を摂取する過食症に大別。いずれも精神的、身体的要因が原因とされているが、詳しいことはわかっていない。

(2016年4月15日 日本経済新聞記事から抜粋)



車いす、より快適に

介護電動ベッドが変身 樹脂製、保安検査素早く

パナソニックは、車いすとしても使える電動ベッド「リショーネプラス」を2017年1月に発売。ベッドの半分を切り離すとリクライニングできる車いすとして使え、要介護度の高い人でも簡単に移動できるようになります。価格は1台当たり税別90万円。

全日本空輸は、金属探知機に反応しない車いすを開発したと発表。金属部品を強度の高い樹脂製に置き換え、乗客の所持品のみを探知できるようにしました。

(2016年4月22日 日本経済新聞記事から抜粋)



テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 4
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



今月の福祉用具－入浴関連用具 その6 浴槽内の動作

- ・浴槽内での姿勢の安定や立ち上がりを考慮して、浴槽は底面が滑りにくく、背もたれの角度の小さいものを選択します。
- ・浴槽の縁の幅は狭いほうが握りやすく、姿勢が安定します。
- ・浴槽が大きすぎると足先が浴槽の縁に届かず、身体が滑りやすく姿勢が不安定になるので、足先が突っ張れるような小さなサイズのほうがよさそうです。
- ・浴槽が長すぎると、立ち上がる時も、重心を前方へもっていきにくく、立ち上がりがしにくくなります。
- ・浴槽の底の傾斜が大きすぎるのも、立ち上がり動作がしにくくなります。
- ・背中に当たる浴槽の縁の形状は、直角に近いほうが足を近づけ、立ち上がりしやすくなります。
- ・形状は和洋折衷式、サイズは1200mm前後、深さは500～550mm程度、浴槽縁高さは（またぎ高さ）は400mm±50mm程度のものが望ましいとされています。
- ・浴槽の底面が滑りやすい場合は、滑り止めマットを利用します。

（参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキストより）

